
**太平洋
戦争
図書目録
2016-2025**

総目次

凡例	(6)
内容目次	(8)

本文

十五年戦争全史	1
太平洋戦争前史	14
太平洋戦争史	99
戦後処理と残された問題	380
著者名索引	459
事項名索引	501
太平洋戦争関係年表	514

凡 例

1. 本書の内容

本書は、太平洋戦争に関する図書を網羅的に集め、主題別に排列した図書目録である。

2. 収録の対象

- (1) 満州事変(1931年)から終戦(1945年)までの十五年戦争とその関連テーマ、戦犯・抑留・引揚・残留などの戦後処理問題に加え、歴史教育・靖国神社参拝など十五年戦争をめぐる近年の問題を対象とし、2016(平成28)年から2025(令和7)年8月までの約10年間に日本国内で刊行された商業出版物、政府刊行物、私家版などを収録した。収録点数は、6,105点である。
- (2) 収録した図書には、戦記・従軍記、戦史・軍事史、兵器等の技術書、軍陣の伝記・評伝、庶民の体験記・回想録・日記・聞き書き・証言集、記録文学等が含まれる。

3. 見出し

- (1) 全体を「十五年戦争全史」「太平洋戦争前史」「太平洋戦争史」「戦後処理と残された問題」の4区分に分類した。
- (2) 上記4区分の下には、地域、部隊、会戦、主題、資料形式などを中見出し・小見出しとして適宜設けた。

4. 図書の排列

- (1) 各見出しの下では書名の読みの五十音順に排列し、欧文の書名については末尾にABC順に配列した。
- (2) 濁音・半濁音は清音扱いとし、ヂ→シ、ヅ→スとみなした。また、拗促音は直音扱いとし、長音(音引き)は無視した。
- (3) 同一書名の図書は出版年順とした。

5. 図書の記述

記述の内容と順序は次の通りである。

書名／副書名／巻次／各巻書名／各巻副書名／各巻巻次／著者表示／版表示／出版地(東京以外を表示)／出版者／出版年月／ページ数または冊数／大きさ／叢書名／叢書番号／副叢書名／副叢書番号／叢書責任者表示／注記／定価(刊行時)／ISBN(Ⓘで表示)／NDC(Ⓝで表示)／内容／〔文献番号〕

6. 著者名索引

各図書の著者名を姓の読みの五十音順→名の読みの五十音順に排列し、その図書の文献番号を示した。

7. 事項名索引

本文の各見出しに関連する用語、テーマ、人名、機関名、地名などを五十音順に排列し、その見出しと掲載ページを示した。

8. 太平洋戦争関係年表(巻末)

太平洋戦争に関わる主な歴史的事項を戦況と一般情勢に分け、年月日順に示した。

9. 書誌事項等の出所

本書に掲載した各図書の書誌事項は、概ねデータベース「BookPlus」およびJAPAN/MARCに拠ったが、掲載にあたっては編集部で記述形式等を改めたものがある。

内 容 目 次

十五年戦争全史	1	満鉄調査部	53
		満鉄図書館	55
十五年戦争全史	1	教育	55
年表・日録	10	文化	56
伝記・人物	10	開拓・生活	59
史料	10	開拓団	65
手記・記録	12	満蒙開拓青少年義勇軍	66
太平洋戦争前史	14	満州各地	68
		日中戦争(支那事変)	68
太平洋戦争前史	14	写真集・図集	73
日本のアジア侵略	14	伝記・人物	73
史料	18	史料	74
植民地経済	19	体験記	74
教育・言語政策	19	従軍記	75
台湾植民地支配	21	盧溝橋事件	77
書誌	24	通州事件	77
史料	24	残虐行為	77
経済・産業	25	南京事件	78
教育・文化	26	日中戦争下の中国	79
宗教	28	経済	82
朝鮮植民地支配	28	文化	82
史料	31	抗日運動	83
手記・記録	33	張学良	83
朝鮮総督府	33	蔣介石	83
経済・産業	34	八路軍	84
教育・文化	35	汪兆銘	84
抗日独立運動	37	対ソ国境紛争	84
中国侵略	37	ノモンハン事件	84
満州	39	仏印進駐	86
満州事変	39	国内戦時体制の確立	86
上海事変・西安事変	41	軍部・ファシズムの台頭	87
満州国	41	五・一五事件	89
書誌	43	二・二六事件	89
写真集・図集	46	言論統制・思想弾圧	91
伝記・人物	46	統帥権問題	93
史料	47	特別高等警察	94
政治・行政	49	大政翼賛会	94
皇帝溥儀とその一族	50	開戦前外交	94
満州国軍	50	松岡洋右	95
経済・社会	50	日独防共協定・日独伊三国同盟	95
南満州鉄道	52	ゾルゲ事件	96
		日米交渉	98

内容目次

太平洋戦争史	99	トラック諸島	138
		パラオ諸島	138
太平洋戦争史	99	ベリリュウ島	139
書誌	109	硫黄島	140
事典	109	北太平洋方面	141
年表・日録	110	アツク島	141
写真集・図集	110	キスカ島	141
伝記・人物	111	大陸戦線	141
原因	111	満蒙	141
開戦	113	華北	142
戦史・戦記	115	華中	142
海戦史	117	華南	142
陸戦史	119	湘桂作戦	142
空戦史	120	西南	142
戦史・戦記(各地)	121	朝鮮・台湾	142
ハワイ・米国土攻撃	122	沖繩戦	143
真珠湾攻撃	122	集団自決	150
米陸軍国土攻撃	124	学徒隊	150
マレー半島・シンガポール攻略	125	ひめゆり学徒隊	151
マレー沖海戦	125	慶良間諸島	152
ビルマ・インド方面	125	宮古島	152
インパール作戦	127	八重山諸島	152
泰緬鉄道	128	資料	152
フィリピン	129	本土決戦	153
ルソン島	130	日本軍	153
レイテ島	131	戦争指導・作戦	155
レイテ沖海戦	131	指揮官・参謀	156
ミンダナオ島	131	大本営	157
セブ島	131	軍閥	158
蘭印方面	131	軍人	158
ジャワ島	132	軍属	160
スマトラ島	132	軍馬・軍用犬	160
ボルネオ島	132	従軍記	161
チモール島	133	徴兵制	162
南太平洋方面	133	学徒出陣	162
ソロモン諸島	133	軍歌	163
ガダルカナル島	133	軍服・装備	163
ニューギニア島	134	軍法会議	164
東部ニューギニア	135	軍事情報	164
ラバウル	135	暗号	166
西部ニューギニア	136	軍事郵便	166
ナウル島	136	医学・衛生	167
マーシャル諸島	136	従軍看護婦	167
中部太平洋方面	136	特別攻撃隊	168
ミッドウェー海戦	136	兵器	172
マリアナ諸島	137	戦車	174
マリアナ沖海戦	137	軍艦	175
グアム島	137	軍用機	175
サイパン島	138	戦闘機	177

太平洋戦争前史

太平洋戦争前史

◇仮説の昭和史 戦前・日米開戦編 保阪正康著 毎日新聞出版 2025.7 246p 15cm (毎日文庫) 1000円 ①978-4-620-21084-1

内容 もし日本がハル・ノートを受諾していたら一本当に最後通牒だったのか ハル・ノート有田八郎元外相の見解 もし張作霖と日本人顧問が共に関東軍に爆殺されていたら一途中下車した町野武馬の謎の行動 張作霖爆殺事件—目的のためには手段を選ばぬ関東軍 もし宇垣一成が“変心”せずクーデターが実行されていたら もし日本が国際連盟を脱退していなければ もし五・一五事件の執行者が厳罰に処されていたら もし佐野学ら共産党幹部が獄中で転向していなかったら もし永田鉄山軍務局長が斬殺されていなかったなら 二・二六事件—もし決起部隊が皇居に入っていたら 二・二六事件—もし昭和天皇が直接鎮圧部隊を率いていたら 二・二六事件—もし「皇軍相撃」事態になっていたら もしトラウトマン工作により日中講和が成功していたら もし日本軍の中国での策行を国民が知っていたら リュシコフ三等大將の亡命は、ソ連の偽装工作か？ ノモンハン事件での日本人捕虜帰還者に理解を示していれば もし三国軍事同盟を結んでいなければ もし松岡洋右が外相に起用されていたら 「ぜいたくは敵だ」ったのか もしルーズベルトの天皇への和平を願う親電が早く届いていたら もし日本が真珠湾の勝利に浮かれずに対応していたら もし日本が事前にタイに領土通過を通告していたら 近衛文麿をスイスへ派遣せよ—吉田茂の講和作戦 もし昭和十七年の翼賛選挙で非推薦候補者が多数を占めたら **[0136]**

◇軍国日本の興亡—日清戦争から日中戦争へ 猪木正道著 中央公論新社 2021.1 331p 16cm (中央文庫 い65-2) (中央公論社 1995年刊の再刊) 900円 ①978-4-12-207013-4 ②210.6

内容 近代化と日清戦争 韓清事変と日英同盟 日露戦争 (1) 日露戦争 (2) 韓清の併合 日米関係の緊張と軍国化 明治から大正へ 第一次世界大戦とロシア革命 軍縮と大正デモクラシー 金融恐慌と張作霖爆殺 ロンドン会議と“金解禁” 陸軍の発祥 満州事変 五・一五事件と国際連盟脱退 ヒトラー政権 軍国主義化 広田内閣 自爆戦争へ **[0137]**

◇コミンテルンの謀略と日本の敗戦 江崎道明著 PHP研究所 2017.8 414p 18cm (PHP新書 1108) 980円 ①978-4-569-83654-6 ②210.6

内容 第1章 ロシア革命とコミンテルンの謀略—戦前の日本もスパイ天国だった 第2章 「二つに断裂した日本」と無用な敵を作り出した言論弾圧 第3章 日本の軍部に対するコミンテルンの浸透工作 第4

章 昭和の「国家革新」運動を背後から操ったコミンテルン 第5章 「保守自由主義」vs「右翼全体主義」「左翼全体主義」 第6章 尾崎・ゾルゲの対日工作と、政府への浸透 **[0138]**

◇封印された日本軍の真実 青木康監修 宝島社 2025.8 159p 21cm 1500円 ①978-4-299-07113-2

内容 第1章 捏造された「残虐な日本軍」という虚像 第2章 反日に隠された「日中戦争」の真実 第3章 こうして自虐史観は生まれた 第4章 自虐史観を植えた戦後メディアの功罪 グラビア写真に見るアジアの日本軍 第5章 忘れられた日本統治時代の真実 第6章 数字で見る日韓併合下の朝鮮半島の発展 第7章 今も祈りが届けられる靖国神社と英霊 **[0139]**

◇二つの世界大戦への道—ドイツと日本の軌跡から 中井晶夫著 えにし書房 2021.2 203p 19cm 2000円 ①978-4-908073-79-3

内容 現代と現代史 世界大戦という前代未聞の悲劇 第一次世界大戦「前史」 帝国主義の結果としての世界大戦 ナショナリズムの倫理 フリッツ・フィッシャーの新説 オトフリート・ニッポルトの独逸遊戦運動 第一次世界大戦の勃発 第一次世界大戦の展開と終局 「危機の二十年」(一九一九—一九三九) 第二次世界大戦 第二次世界大戦の展開と終局 日本、第二次世界大戦に参入 **[0140]**

◇明治維新から「あの戦争」への軌跡—太平洋戦争の起源を考える 市野昌彬著 市野昌彬 2016.9 277p 21cm (文献あり) 非売品 ②210.6 **[0141]**

日本のアジア侵略

◇アジアから見た日本の侵略—明治維新から東南アジア占領まで 高堂真一著 ミヤオビパブリッシング 2020.2 178p 21cm (文献あり) 宮帯出版社(発売) 1800円 ①978-4-8016-0226-7 ③319.201

内容 第1章 日本の主権国家としての国境確立 第2章 朝鮮半島への日本の侵略 第3章 8ヶ国連合軍侵略戦争、日露戦争と韓国併合 第4章 対華21条、シベリア干涉、三一運動と五四運動 第5章 ワシントン体制、国民革命と日本 第6章 謀略の九一八事変(柳条湖事件)から西安事変 第7章 七七事変(盧溝橋事件)から重慶無差別爆撃 第8章 アジア太平洋戦争 **[0142]**

◇インターセクショナリティで語る植民地支配と侵略戦争 ふえみ・ゼミ&カフェ運営委員会編 あけび書房 2025.6 219p 19cm 1700円 ①978-4-87154-282-1 ③369.37

内容 序章 対談 戦後75年、戦争の記憶をどう継承する

か? (吉田裕 梁・永山聡子) 第1章 国家謝罪なきフィールドを調査する—日本軍性暴力被害者の名誉回復運動(熱田敬子) 第2章 日韓の歴史をたどる土地の収奪(洪昌極) 第3章 裴奉奇さんを記憶する—朝鮮半島の分断を超えて(朴金優純) 第4章 人探しの2・28—ジェンダーと国家暴力、責任の問題(沈秀華) 第5章 日本占領地香港とその周辺(和仁康夫) 第6章 近代日本の戦争障がい者(松田英里) 終章 日本軍兵士の戦争トラウマ(中村江里) (聞き手 梁・永山聡子) **[0143]**

◇語り継ぐ日本の侵略と植民地支配 赤旗編集局編 新日本出版社 2016.3 188p 19cm 1500円 ①978-4-406-05978-7 ②210.75

内容 1部 侵略戦争と植民地支配の実態(日本の侵略戦争—半世紀の系譜 南京大虐殺、731部隊、日本軍「慰安婦」—動かしかがたい事実 侵略・虐殺・占領の傷跡—加害の現場から) 2部 無謀な戦争で日本国民が犠牲(広島・長崎への原爆投下、沖縄戦、無差別空襲の実態 証言—戦争) **[0144]**

◇植民地化がもたらした偽装の歴史—隠蔽された東アジアの近現代史 小澤龍一著 小金井 合同出版 2025.2 334p 19cm (文献あり) 2200円 ①978-4-7726-1578-5 ②210.6

内容 第1章 帝国主義成立期—19世紀末から20世紀初頭 第2章 世界史に登場した未開の地 アメリカ大陸 第3章 膨張するアメリカ イギリス・ロシア 第4章 開国—国際社会にデビューした日本 第5章 大日本帝国憲法と神国日本 第6章 アジアに膨張する帝国主義 第7章 第一次世界大戦という時代 第8章 関東大震災に襲われた日本 第9章 金融恐慌と軍部の台頭 第10章 戦時体制を構築する世界と日本 第11章 日中戦争前後、戦争とアヘン 第12章 第二次世界大戦が出現した世界 第13章 占領が始まり、戦争が裁かれる 第14章 アメリカの東アジア戦略 **[0145]**

◇植民地建築紀行—満洲・朝鮮・台湾を歩く 西澤泰彦 オンデマンド版 吉川弘文館 2021.10 284p 19cm (歴史文化ライブラリー 330) (文献あり 原本:2011年刊) 2500円 ①978-4-642-75730-0 ⑤523.2 **[0146]**

◇植民地「公娼制」に帝国の性政治をみる—釜山から上海まで 宋連玉著 有志舎 2023.10 414, 6p 20cm (年表あり) 3600円 ①978-4-908672-68-2 ③368.4

内容 序章 植民地主義からみる「公娼制」 第1章 居留地・外務省警察の性管理政策 第2章 朝鮮支配を狙う侵略戦争と性暴力・性統制 第3章 「韓国併合」武断統治下の植民地「公娼制」確立 第4章 朝鮮女性が生きた植民地社会 第5章 上海における戦争・占領と性政策 終章 売春する帝国 **[0147]**

◇植民地主義再考—民族差別なくすため 小林たかし著 積文堂出版 2016.7 200p 20cm (他言語標題: Reconsideration of Colonialism) 1800円 ①978-4-88116-902-5 ③319.1021

内容 第1章 なぜならならない民族差別(植民地主義再考—朝鮮「三・一」独立運動)の記念日に「関東大虐殺」からヘイトスピーチまで—朝鮮人虐殺事件は終わっていない 言葉への無頓着について—朝鮮高校「無償化」除外と植民地主義 朝鮮学校への差別、なぜなくてはならない—京都朝鮮学校「襲撃事件」判決

の意味) 第2章 戦争と戦後を考える(朝鮮の戦後と日本の戦後—朝鮮戦争勃発から六三年「上海事変」前後のこゝろ—藤森節子「そこにいる魯迅」によせて戦時下の反戦活動—志賀美恵「芝罘ある時代の上海・東京」を読む 日本の「終戦」と東アジアの「終戦」—戦後七〇年、「安保法制」に反対する夏に) 第3章 ナショナリズム雑感(国見の思想と捨て石作戦 山辺徳太郎氏のこと ダイナマイトとなったナショナリズム 大河ドラマ「軍師官兵衛」の描かなかった朝鮮侵略戦争 日韓市民の交流から生まれた本) **[0148]**

◇植民地帝国日本とグローバルな知の連環—日本国の朝鮮・台湾・満洲統治と欧米の知 松田利彦、陳延濠責任編集、通堂あゆみ、やまだあつし、鄭駿永編集委員 京都 思文閣出版 2025.3 629, 16p 22cm (日文研・共同研究報告書 185) (索引あり) 14000円 ①978-4-7842-2091-5 ③334.51

内容 第1部 研究の現状と本書の概観 第2部 日本本国における知の形成と植民地 第3部 科学と帝国主義 第4部 植民地医学の形成と展開 第5部 植民地大学における知の生産 第6部 植民地地現の知と被支配民族 **[0149]**

◇植民地帝国日本における知と権力 松田利彦編 京都 思文閣出版 2019.2 950, 22p 22cm (文献あり—年譜あり—著目録あり) 15000円 ①978-4-7842-1965-0 ③334.51

内容 第1部 研究の現状 第2部 植民地化と知の再編 第3部 植民地官僚の知と植民地在留日本人の知 第4部 帝国の知と欧米世界の知 第5部 被支配民族の知 第6部 脱植民地化/脱帝国化と知の再編 **[0150]**

◇戦前植民地だった台湾・韓国を訪ねて—台湾・霧社事件と朝鮮半島 野崎繁著 文芸社 2022.8 188p 19cm 1300円 ①978-4-286-23949-1 ③222.406 **[0151]**

◇戦争・植民地支配とアーカイブズ 1 戦時国際法と帝国日本 安藤正人著 東京大学出版会 2024.11 580p 22cm (他言語標題: War, Colonial Rule and Archives 索引あり) 12000円 ①978-4-13-020351-7 ③317.6

内容 序章 「失われた記憶」—アーカイブズ史のまなざし 第1部 戦争とアーカイブズをめぐる国際関係(国際法におけるアーカイブズの地位—戦時国際法を中心に 敵産管理法制とアーカイブズ 戦争とアーカイブズをめぐる日本の国際法認識 第二次世界大戦期における在外公館文書をめぐる日英の確執 1940年上海土地記録問題をめぐる日本と欧米諸国) 第2部 植民地支配とアーカイブズ(日本の植民地支配と「植民地アーカイブズ政策」 「満洲国旧記整理処」—望まれる「植民地アーカイブズ事業」 朝鮮総督府統治下の「植民地アーカイブズ事業」) **[0152]**

◇戦争・植民地支配とアーカイブズ 2 アジアの日本軍政と敗戦 安藤正人著 東京大学出版会 2025.2 460p 22cm (他言語標題: War, Colonial Rule and Archives 索引あり) 9600円 ①978-4-13-020352-4 ③317.6

内容 第1部 日本占領下アジアにおけるアーカイブズ(日中戦争期における図書・文書の押収—「占領地区図書文件接収委員会」を中心に 日本軍政の「占領地アーカイブズ政策」とその影響—英領マラヤ・シ

戦後処理と残された問題

戦後処理と残された問題

◇皇国日本の興廃と戦勝国の「対日処罰政策」
久守藤男著 文芸社 2023.7 250p 15cm
〈文献あり 年表あり〉 700円 ①978-4-286-24232-3 ③319.1 [5128]

◇サンフランシスコ講和と東アジア 川島真 細谷雄一編 東京大学出版会 2022.3 314p
21cm 5200円 ①978-4-13-036285-6

【内容】1 サンフランシスコ講和とは何か—日米和解への道(サンフランシスコ講和条約体制の形成とその揺らぎ—帝国の解体と賠償問題 多数講和と寛大な講和—日本の構想と選択 占領から講和へ—なぜ寛大な講和が可能となったのか) 2 サンフランシスコ講和と連合国(サンフランシスコ講和条約への道とその後—「封じ込め」の骨格の成立 サンフランシスコ講和とイギリス外交 フランスとサンフランシスコ講和条約、一九四五—一九五一年) 3 サンフランシスコ講和と東アジア(戦後初期中国における対日講和観—一九四五—一九四七年を中心に 二つの平和条約と日台経済—経済史的視座から サンフランシスコ講和条約と感情—米軍政期/一九五〇年代初頭の韓国社会 サンフランシスコ講和条約とフィリピン—国際主義の定着とその後) [5129]

◇昭和史 戦後篇 1945-1989 半藤一利著 新版 平凡社 2025.1 630p 16cm (平凡社ライブラリー 980) 〈文献あり 年表あり 索引あり〉 1200円 ①978-4-582-76980-7 ③210.7

【内容】天皇・マッカーサー会談にはじまる戦後 敗戦と「一億総懺悔」 無策の政府に突きつけられた苛烈な占領政策 GHQによる軍国主義の解体 飢餓で「精神」を喪失した日本人 政党、ジャーナリズムの復活 憲法改正問題をめぐって右往左往「松本委員会」の模索 人間宣言、公職追放そして戦争放棄 共産党人 横安 平和憲法の萌芽「自分は象徴でない」と装いの聖断 GHQ憲法草案を受け入れる 「東京裁判」の判決が下りるまで 冷戦のなか、徹底的に裁かれた現代日本史 恐るべきGHQの右旋回で…改革より復興、ドッジ・ラインの功罪 朝鮮戦争は「神風」であったか 吹き荒れるレッドパージと「特需」の嵐 新しい独立国日本への船出 講和条約への模索 混迷する世相・さまざまな事件 基地問題、核実験への抵抗 いわゆる「五五年体制」ができた日 吉田ドクトリンから保守合同へ「もはや戦後ではない」改憲・再軍備の強硬路線へ 六〇年安保闘争のあとにきたもの ミッチャーブーム、そして政治闘争の終幕 嵐のごとき高度経済成長 オリンピックと新幹線 昭和元祿の「ツケ」困憊パワーの噴出と三島事件 日本はこれからどうなるのか 戦後史の教訓 こぼればなし 昭和天皇・マッカーサー会談秘話 [5130]

◇昭和史講義 戦後篇上 筒井清忠編 筑摩書房

2020.8 382p 18cm (ちくま新書 1508)
1100円 ①978-4-480-07340-2 ③210.76

【内容】天皇・マッカーサー会談から象徴天皇まで 戦後改革 シベリア抑留 復員と引揚げ—戦争終結後の人の国際移動 東京裁判—被告東条英機のケースから 日本国憲法 新憲法と世論の変遷 吉田茂内閣一時代で変化する吉田路線とワンマン宰相 戦後共産党史—レッドパージから六全協まで 朝鮮戦争と日本 再軍備から自衛隊創設まで サンフランシスコ講和条約・日米安保条約 李承晩ラインと漁業問題 ラストボロフ事件—日本を舞台とした米ソ情報戦 鳩山一郎内閣 砂川闘争・基地問題 五五年体制の成立と展開 自民党抗争史 戦後賠償問題 日ソ共同宣言 [5131]

◇戦後沖縄と復興の「異音」—米軍占領下 復興を求めた人々の生存と希望 謝花直美著 有志舎 2021.6 271p 19cm 2600円 ①978-4-908672-49-1

【内容】序章 戦後沖縄 占領下の生活・生存/復興の中の「異音」 第1章 ミシンと復興—女性たちの「生活圏」と共助 第2章 移動と引揚げがつくった「金武湾」という地—米軍占領下、沖縄の生存と労働 第3章 「復興」の中の離散—垣花と軍港で働く人々 第4章 「復興」に奪われた真和志村 第5章 「オフ・リミッツ」と「米流親善」による境界編成 第6章 「アカ」と「第一次琉大事件」 終章 「気持ちまでは取れない」 [5132]

◇「戦後」を読み直す—同時代史の試み 有馬学著 中央公論新社 2024.9 277p 20cm (中公選書 153) 〈文献あり 索引あり〉 1900円 ①978-4-12-110155-6 ③210.76

【内容】序章 意図と方法 第1章 私の教科書 大日本図書『国語5年・1』『国語6年・1』 第2章 「戦後」の終わり方、戦争の忘れ方 むのたけじ『たいまつ十六年』山口瞳『江分利満氏の優雅な生活』 第3章 「暮しの手帖」という問題 第4章 テレビは現在を写す装置だった 萩元晴彦・村木良彦・今野勉『お前はただの現在にすぎない—テレビになにが可能か』小林信彦『テレビの黄金時代』 第5章 等身大の隣人—韓流前後 関川夏央『ソウルの練習問題—異文化への透視ノット』別冊宝島39 朝鮮・韓国を知る本』 第6章 高度消費社会は「戦後」か?—自動車をめぐるフォークロア 辻豊・土崎一『ロンドン—東京5万キロ—国産車ドライブ記』徳大寺有恒『間違ひだらけのクルマ選び』 終章 「戦後」の起源—山田風太郎『戦中派不戦日記』『滅失への青春—戦中派虫けら日記』 [5133]

◇戦後が若かった頃に思いを馳せよう—憲法・沖縄・アジア・戦後補償 靖国 内田雅敏著 三一書房 2019.2 269p 19cm 1800円 ①978-4-380-19000-1 ③323.14

【内容】1 はじめに いくつかの映画と本と (プロ意識を

刺激された2本の映画—「顔のないヒットラーたち」、『ブリッジ・オブ・スバイ』を観て ヒトラー政権下の子どもたち—「そこに僕らは居合わせた」、『片手の郵便配達人』を読む(ほか) 2 憲法(戦後が若かった頃に思いを馳せよう—一法の下廻りから明文改憲への「安倍改憲」とどう闘うか 自衛隊明記の改憲案—人類は平和、独立、安全という「普遍的価値」を掲げて戦争をして来た(ほか) 3 日本・韓国・中国(韓国大法院徴用工判決に思う—歴史問題の解決に求められる加害者の償いと節度 「日韓合意」は慰安婦問題の最終的解決でなく出発点—合意を日韓民間人の不信連鎖の餌としてみなければならない(ほか) 4 靖国(靖国史観が透けて見える安倍首相の70年談話—何故、日露戦争の「勝利」から始まるのか 靖国神社宮司辞任騒動が明らかにした「戦死者の魂独占」の虚構—宗教法人任せの追悼は国の怠慢、国立の追悼施設創設(ほか) [5134]

◇戦後史の現場検証—ルロライターの取材メモから 植田康夫編 大阪 創元社 2016.4 580p 21cm (年表あり 索引あり) 2800円 ①978-4-422-30068-9 ③210.76

【内容】第1章 戦後理念の揺らぎ(45年の実像—敗戦と自由戦士出獄—「臣民」から国民への最初の烽火 民主化の陰の人々—GHQの中の「異端派」—民主主義を教えた外人記者と将校(ほか) 第2章 サンフランシスコ講和から血のメーデーまで(昭電疑獄と「中央公論」上—「中公」の記事が発端に—編集長と部員を国会に喚問 昭電疑獄と「中央公論」下—議会政治のルール破る—政権たらい回しの奇怪事の数々(ほか) 第3章 出版界と言論ジャーナリズムの転換(転換するジャーナリズム1—しばしば民主的な高揚—雑誌「夫婦生活」ブームの背景 転換するジャーナリズム—世界「講和特集号」の頭—占領から安保・行政協定成立へ(ほか) 第4章 日米安保とジャーナリズムの使命(安保闘争・市民運動の高揚—ようやく大衆の中へ—地道な統一行動の積み重ねで 安保闘争・市民運動の高揚2—新条約の強行採決へ—警官隊や暴力団を院内に入れて(ほか) 第5章 終わらざる戦後(三池炭鉱事故の陰に—一疑念と不信と憎悪と—CO中毒問題の難かしさ 痛感 三池炭鉱事故の陰に—下—嬉しい明るさ)の家族—国家権力への憎悪が支えに(ほか) [5135]

◇戦後昭和クロニクル—あの時代へホップ、ステップ、ジャンプ 朝日新聞出版編著 朝日新聞出版 2023.4 239p 26cm (朝日ビジュアルシリーズ) 〈年表あり 出版表示等はカバーによる〉 1600円 ①978-4-02-334119-7 ③210.76

【内容】昭和20(焦土に流れる玉音放送 宝くじの戦後史(ほか) 昭和21(天皇全国巡幸 出版ブーム・カストリ雑誌の氾濫) 昭和22(終戦直後の子どもたち) 昭和23(東京裁判の判決下る 懐しの紙芝居(ほか) 昭和24(東京最大の謎・下山事件) 昭和25(朝鮮戦争勃発 懐かしい子ども遊び) 昭和26(独立ニッポン 上野動物園の狼山) 昭和27(「もく星」号墜落の謎) 昭和28(街頭テレビがやってきた プロマイドに見る西部劇スター) 昭和29(映画は娯楽の王様だった 力道山)(ほか) [5136]

◇戦後政治史 石川真澄、山口二郎著 第4版 岩波書店 2021.3 347, 15p 18cm (岩波新書 新赤版 1871) 〈索引あり〉 1040円 ①978-4-00-431871-2 ③210.76

【内容】敗戦 占領と改革の開始 憲法改正 政党の復活 戦後最初の総選挙と第一次吉田内閣 社会党 第一党に 初の単独過半数政党 講和の前後 吉田対鳩山、左社対右社 保守—党優位体制の成立 日ソ国交回復、国連加盟 六〇年安保と政治の転回 経済政治の時代 社会党変貌の挫折 佐藤長期政権の始まり 沖繩、「本土並み」返還「今太閤」と列島改造「今太閤」の没落 首相の犯罪 伯仲の啓座 偉「閣内閣」の支配 「総決算」路線の進展 自民党の世代交代 竹下派支配 「国際貢献」と選挙制度改革 「保守」政治の拡大 節目としての戦後五〇年 挫折する「改革」—一九九九年という転機 小泉ブームと構造改革「9.11」以後 郵政民営化という争点 安倍・福田・麻生と「ねじれ国会」 「派遣村」からの問い 実現した政権交代 3.11の衝撃 政治刷新への幻滅 史上最長政権の構図 安全保障政策の転換 長期政権の終わり [5137]

◇戦後七十年の真実 渡部昇一著 育鸚社 2019.4 223p 16cm (扶桑社文庫 わ10-5) 〈年譜あり 共同刊行:扶桑社 扶桑社(発売)〉 700円 ①978-4-594-08189-8 ③210.76

【内容】第1章 私の履歴書(序章) 第2章 終戦とは何だったのか 第3章 終戦後、何がどう変わったのか 第4章 主権回復後の日本—冷戦と安保条約 第5章 高度経済成長とオリンピック 第6章 冷戦の終結と失われた20年 第7章 残された課題 [5138]

◇戦後日本を読みかえる 5 東アジアの中の戦後日本 坪井秀人編 京都 臨川書店 2018.7 262p 20cm 3200円 ①978-4-653-04395-9 ③210.76

【内容】第1章 「戦争論」概念再考—「空襲」は戦後の図像か 第2章 堀田善衛『時間』が問いかけたこと—戦後日本の戦争責任論の歴程から 第3章 「日中友好」の時代と戦争記憶—城友梅『さよなら瀬戸内海』と森村誠一「七三一部隊」シリーズ 第4章 在日朝鮮人から見た「転向」の言説空間—金達寿文学における「親日」表象を通じて 第5章 聞こえてきた解放—一九四五年前後の朝鮮人作家の小説に描かれた帰郷・移住と異族の葛藤 第6章 身体を生きることの痛みに向けて—目取真俊『面影と連れて』論 第7章 ジェンダー・セクシュアリティ・記憶—東日本大震災前後の観光消費文化における「台湾」と女性雑誌 [5139]

◇戦後日本を読みかえる 4 ジェンダーと政治 坪井秀人編 京都 臨川書店 2019.3 294p 20cm 4000円 ①978-4-653-04394-2 ③210.76

【内容】第1章 優生学的想像力—津島佑子『狩りの時代』を読む 第2章 引揚者医療救護における組織的人工妊娠中絶—優生保護法前史 第3章 生殖管理の戦後—優生保護法成立前後の中絶と主体をめぐる 第4章 リブと依存の思想—中絶・子殺し・育てる身体 第5章 「主婦之友」別冊附録にみる女性の身体 第6章 「肉体」から戦後を再考する—田村泰次郎の「肉体文学」を中心に 第7章 坂口安吾の戦後作品の肉体に見る「主体のゆらぎ」—「白痴」「魔の退屈」「戦争と—人の女」を中心に 第8章 洞窟からクリプトへ—山城知佳子『肉屋の女』を読む [5140]

◇戦後日本憲政史講義—もうひとつの戦後史 駒村圭吾、吉見俊哉編著 京都 法律文化社 2020.11 385p 21cm 〈他言語標題: The

- 【あ】
- 愛川 今生 5448
 愛川町郷土資料館 2559
 相澤 淳 2669, 2670, 2728
 会田 雄次 5539
 愛知縣護國神社 4806
 愛知大学国際問題研究所
 0160
 愛葉 由依 4490, 4624
 相原 謙次 2420, 4421
 相原 輝吉 5615
 相原 秀起 5033
 始良地区「原爆と人間」展
 20周年記念誌編集委員
 会 4702
 アイルランド, アレン
 0339, 0340
 阿吽 正望 5284
 亜円堂 1157
 青木 功夫 3995
 青木 馨 5516
 青木 金作 0664
 青木 邦弘 3472
 青木 藏男 2731
 あおき けいこ 4797
 青木 康晋 3746
 青木 茂 1072,
 5344, 5345, 5361, 5364, 0462
 青木 隆幸 0853
 青木 弘亘 5545, 5546
 青木 富貴子 5250
 青木 康 0139, 1978
 青木 有加 5329, 5907
 あおき ゆみえ 4797
 青木 ヨシヒト 0017
 青木 良郎 1043
 青海 美砂 3810
 青柳 武彦 1437, 5283, 5961
 青柳 忠夫 0785, 0884
 青柳 安彦 3933
 青山 晃 0904
 青山 繁晴 1540, 1781
 青山 淳平 5461
 青山 智樹 2897
 青山 誠 0360,
 1366, 2900, 2901, 3453
 青山学院資料センター150
 年史編集室 4066
 赤井 照久 2673
 赤尾 覺 0400,
 0401, 5804, 5812
 赤上 裕幸 5155
 赤木 鐵夫 5291
 赤木 完爾 0014, 0015
 あかぎ ひろゆき 2527
 赤澤 史朗 3698,
 6029, 4268~4271
 赤沢 八重子 4182
 明石 優子 5570
 赤須 正一 3854
 赤塚 順一 4944
 あかね書房 4214~4216
 赤羽 末吉 0560
 赤旗編集局 0144,
 0329, 0359, 5896, 0053
 秋尾 沙戸子 5165
 秋岡 あや 0359
 昭島市教育委員会 2533
 アキタ, ジョージ 0362
 秋田県戦争遺跡研究会
 5058
 秋田魁新報社 4292
 「秋田のこだま」編集部
 4008
 秋水 芳郎 1119,
 4212, 1563, 1730, 2391
 秋葉 洋 3923
 秋場 涼太 2463
 秋元 なおと 4210
 秋本 実 3058
 秋本 元之 2789, 2791~2793
 秋山 かおり 4239, 4246
 秋山 久 3359
 秋山 勝 3005, 3006
 秋山 道宏 1862
 阿久澤 武史 3595, 5061
 阿久刀川 真 5639
 坏 駒江 5668
 坏 正義 5668
 アクティブ・ミュージア
 ム「女たちの戦争と平
 和資料館」 3230, 5406
 上屋の戦中・戦後を知り
 記録する会 4029, 4030
 吾郷 修司 4590
 浅井 亜紀子 5820
 浅井 和恵 0850
 浅井 得一 1594
 浅井 春夫 1839,
 4931, 1400, 4932, 4934,
 4916~4920, 4915
 浅尾 悟 3289, 5080, 5081
 浅生 ハルミン 1316
 朝岡 明美 4217
 浅香 須磨子 3861
 浅川 保 0488
 朝倉 豊次 2918
 朝治 武 3814
 浅田 恵子 4744
 浅田 純雄 3656
 麻田 雅文 1115,
 1116, 5014, 1122
 浅野 慎一 5870
 朝野 富三 5528, 5503, 5536
 浅野 豊美 5415
 浅野 周夫 2141
 朝日 名草 2060
 朝比 米 0073
 朝日会館・会館芸術研究
 会 3683
 旭川歴史を学ぶ母の会
 4194
 朝日新聞社 0836, 4180
 朝日新聞取材班 5969
 朝日新聞出版 5136
 朝日奈 満里子 5882
 アジア太平洋戦争期の相
 武地域史研究会 3286
 足利 正智 2059
 足柄史談会 3294
 芦田 英機 5739
 芦田 均 0492
 芦中 順文 6100
 麻生町史編さん事務局
 4031
 足立 修一 4783, 4784
 足立 淳 4085
 足立 助蔵 2631
 足達 太郎 0630
 安達 宏昭 0158, 0194, 3212
 安達 まみ 1168
 足立の学童疎開を語る会
 3575
 足立の学童疎開を語る会
 事務局 3537
 新しい歴史教科書をつく
 る会 6094
 阿南 フサ子 3581
 我孫子市史研究センター
 4053
 阿比留 瑠比 5476
 阿部 海 2474

【あ】

- 愛国婦人会 →女性・婦人……………317
 愛新覚羅浩 →皇帝溥儀とその一族……………50
 愛新覚羅溥儀 →皇帝溥儀とその一族……………50
 愛新覚羅溥傑 →皇帝溥儀とその一族……………50
 赤紙 →徴兵制……………162
 阿嘉島 →慶良間諸島……………152
 朝日新聞 →慰安婦報道問題……………406
 アジア →日本のアジア侵略……………14
 アジア・太平洋戦争 →太平洋戦争史……………99
 新しい歴史教科書をつくる会 →「つくる会」教科書論……………456
 アッツ島 →アッツ島……………141
 阿片 →日中戦争下の中国……………79
 甘粕正彦
 →文化……………56
 →甘粕正彦……………184
 アメリカ →米陸軍国本土攻撃……………124
 アメリカ移民 →アメリカ移民……………321
 アメリカ軍
 →米陸軍国本土攻撃……………124
 →アメリカ軍……………252
 荒木貞夫 →荒木貞夫……………184
 暗号
 →軍事情報……………164
 →暗号……………166
 慰安婦
 →占領軍慰安婦……………394
 →従軍慰安婦……………400
 慰安婦報道問題 →慰安婦報道問題……………406
 硫黄島 →硫黄島……………140
 医学 →医学・衛生……………167
 伊号潜水艦 →潜水艦……………233
 遺骨収集 →戦没者……………357
 石原莞爾
 →満州国……………41
 →石原莞爾……………184
 遺族援護 →戦没者遺族……………362
 遺族会 →戦没者遺族……………362
 一式陸攻 →陸上攻撃機隊……………245
 犬 →軍馬・軍用犬……………160
 井上成美 →井上成美……………209
 今村均
 →インパール作戦……………127
 →今村均……………185
 移民
 →開拓・生活……………59
 →日系移民の戦時生活……………320
 慰問 →軍歌……………163
 医療 →福祉・医療……………274
 慰霊 →戦没者……………357
 インド →ビルマ・インド方面……………125
 インドネシア
 →閩印方面……………131
 →インドネシア……………251
 インパール作戦 →インパール作戦……………127
 宇垣纏 →宇垣纏……………210
 牛島満 →牛島満……………186
 内蒙古 →滿蒙……………141
 馬 →軍馬・軍用犬……………160
 運輸 →運輸……………272
 映画
 →教育・文化〔台湾植民地支配〕……………26
 →文化〔満州国〕……………56
 →映画〔戦時下の国内情勢〕……………290
 A級戦犯
 →A級戦犯……………413
 →靖国神社……………450
 衛星 →医学・衛生……………167
 栄養問題 →食糧・栄養問題……………301
 江田島海軍兵学校 →海軍兵学校……………217
 択捉島 →千島・樺太……………372
 NHK →慰安婦報道問題……………406
 遠藤三郎 →遠藤三郎……………186
 汪兆銘 →汪兆銘……………84
 大久野島 →化学兵器……………189
 大阪
 →大阪〔戦争体験記〕……………315
 →大阪〔空襲〕……………332
 →大阪〔戦争遺跡〕……………376
 大西瀧治郎 →大西瀧治郎……………210
 岡田啓介 →岡田啓介……………260
 沖縄
 →九州地方・沖縄〔戦争体験記〕……………316
 →九州地方・沖縄〔空襲〕……………333
 →九州地方・沖縄〔戦争遺跡〕……………377
 沖縄県女子師範学校 →ひめゆり学徒隊……………151
 沖縄県立第一高等女学校 →ひめゆり学徒隊……………151
 沖縄戦 →沖縄戦……………143
 尾崎秀実 →ゾルゲ事件……………96
 小沢治三郎 →小沢治三郎……………210
 小野田寛郎 →フィリピン……………129
 オランダ領東インド
 →閩印方面……………131
 →インドネシア……………251

太平洋戦争関係年表

年月日	戦況	一般情勢
一九三一年九月一八日	柳条溝事件勃発。満州事変始まる	最後の政党内閣、犬養毅内閣成立
一九三二年三月一日		満州国建国
五月一五日		五・一五事件勃発。犬養毅首相暗殺される
五月二二日		斎藤実内閣成立
九月一五日		満州国を承認
一〇月二日		日満議定書調印
一〇月三日	山海関を占領	リットン調査団、満州事変をめぐる日中紛争に関する調査結果を国際連盟に報告
一九三三年一月二日		初の満州移民団出発
三月二七日		国際連盟を脱退
七月二〇日		満州移民計画大綱発表
一九三四年三月一日		満州国執政溥儀、皇帝に即位
七月八日		岡田啓介内閣成立
一九三五年三月二三日		ワシントン軍縮条約国に対し、条約の破棄を通告
六月一〇日		北満鉄道に関する譲渡協定に日本、満州国、ソ連が調印
六月二七日		梅津・何応欽協定成立 土肥原・秦徳純協定成立

太平洋戦争図書目録 2016-2025

2025年10月25日 第1刷発行

発行者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社平河工業社

© Nichigai Associates, Inc. 2025

不許複製・禁無断転載

(北越メソエットライトクリーム使用)

<落丁・乱丁本はお取り替えます>

ISBN978-4-8169-3074-4

Printed in Japan, 2025

本書はデジタルデータを有償販売しております。
詳細はお問い合わせください。